**№25　テーマ『人格の深さをつくる』後半**

**講話日2010年2月1日**

**それでは後半の話に入ります。**

**人づてで聞いた話なんですけども、酒乱のご主人がいらっしゃって、酒を飲むたびに奥さんや子ども達を殴る家庭があって、普通なら酒乱のご主人が暴れ始めたら逃げ惑うのが当然なのですが、そのときに奥様がお坊さんの説教も聞かれて、酒乱のご主人が暴れ始めたときに逃げないで、ご主人の前に正座して、手を合わせて「ありがとうございます」と言ったそうです。そういうことも自分に対して神仏が与えた試練だと。最初はいつもと変わらず殴りつけていたものが、だんだん勢いが弱まってきて、最終的には殴れなくなってしまって、最後は「ごめんよ、許してくれよ」と奥様を抱きしめたそうです。それを契機にして酒乱が治ったと言う話もあるんですよ。**

**そういう苦しさから逃げないで、受け止めて、それを乗り越えていこうとする力というのは、すごい奇跡を生む。それほどの大きな成長がそこにあるわけです。自分のみならず、周りの人も成長させていく。同様のことが世界でもあって、ガンジーがインドをイギリスの支配から解放するためにとった無抵抗主義。民衆に銃を構えて待ち受けている軍隊に向かって、市民が全く武器を持たないでお互いに手を組んで前進していくんですよ。これは「撃てるなら撃ってみろ」という対立心ではなくて、「同じ人間ではないですか。どうか撃たないで人間性を取り戻して欲しい」という願いを込めた瞳と祈りを込めた歩みで一歩一歩近づいていく。結果としてついに軍隊は、市民を撃つことができなくて、銃口を下げて市民を迎えた。そういうことからも、無抵抗主義がいかに人間性を呼び覚ます強い力を持つか、と非常に評価されたわけです。**

**とにかく、どんな辛い状況からでも逃げないという気構えというのは、天の心を動かす。人間技ではない、宇宙に響いて問題を解決させる力を湧き出させる。そういう効果があるということです。いかにいろんな問題から逃げないで、それを愛の試練として受け入れて対応していく。そういう人間の行動には、ある意味で奇跡的な結果を呼び起こす力があるんだと、実例を通して我々は知ることができるんじゃないかと思います。そういうことから、本当に人生において自分に与えられる様々な苦難から「逃げへんぞ」という気構えで、それを受け入れて乗り越えていこうとする努力というのは、大切で尊いものだと思うんですよ。人間は不完全ですから、常に問題というのは降り掛かってくる。問題がなくなることはない。「逃げへんぞ」と突っ立っていただけでは、張り倒されてしまったら終わりなので、気構えを持ってどう問題を乗り越えていくことかが、次の大きな課題になってきます。**

**だけど、いろんな問題から「逃げへんぞ」という気構えが大事なのかと言ったら、ちょっとでも逃げたいと思ったら、問題を乗り越える力が命から湧いてこなくなるんですよ。「逃げへんぞ」という気構えで問題にぶつかっていこうとすると、問題を乗り越える力が命から湧き上がってくる。自分の底力が湧いてくる。だけど逃げたいと思ったら、もうその瞬間から自分のすごい力は出てこなくなってしまう。誰かに助けてもらいたいとか、依存心が出てくると、すると自分の力が出て来なくなる。逃げたいと思うと、今自分が置かれている状況が歪んで見えてしまう。自分の置かれている状況を正しく読み取ることができない。だからいろんな対応をとっても、対策が的確ではない。なかなか問題を乗り越えられない。また、逃げたいという気持ちがあると、今自分が置かれている状況が浅くしか見えない。問題状況を深く読み取れない。今自分が置かれている問題状況を的確に深く読み取り、自分の底力を上げさせるためには、どうしても「逃げへんぞ」という気構えが大事なんです。**

**いろいろな人生には逃げたくなることもあって、逃げるとますます問題は自分の肩に辛くのしかかってくるんですよ。逃げれば逃げるほど、ますます辛くなります。もう逃げられない状況に追い詰められてしまったら、「なんとか俺がするしかない」と思って踵を返して、問題に立ち向かっていくという気持ちが出てくると、それまでさっきまでズシンと肩にのしかかっていた問題の苦しさ・重さが、ふっと半分に減ってしまうんです。半分に減ったら「なんか乗り越えていけそう」という感じになってくるんですよ。逃げている間はものすごく肩に重くのしかかってくる問題なんだけど、「逃げへんぞ」という気構えを持った瞬間に問題を乗り越えるための底力が湧いてきて、問題の重さを軽くしてくれるという働きがあります。それを体験した人しか実感は持てないかもしれませんけど、とにかく人生は逃げれば逃げるほどますます苦しくなる。「逃げへんぞ」と思って向かって行ったら、必ず問題を乗り越える力が命から湧き上がってきて、何とか乗り越えていけそうという気持ちが出てくる。とにかく、問題を的確に深く捉えて、自分の底力を湧き出させる。そのためにも、まずは「逃げへんぞ」という気構えが非常に大事なんですよ。**

**私が自分の人生を振り返っても、壇上に立って私が話をさせていただけるような内容を自分が持てるようなことになってきたプロセスを考えると、何回となく「あのとき、あの問題から逃げていたら、今の俺はなかったよな」ということが、いくつも思い出されてきます。なんとか苦しかったけど乗り越えてきたので、今こうやって壇上に立って、皆様方に聞いていただけるようなことを話せるような自分ができた。結局、人生を振り返ってみると、「逃げへんぞ」ということだけでやってきたような気もします。そんな感じがあるわけですよ。ということがあるから、自分も成長させてもらった。本当に人生を長く生きてく上で、いろんな問題をぶつからなければならない。**

**なぜ、私が問題に立ち向かっていくという気力をつくって来たかというと、なんか問題にぶつかるたびに、自分で自分に対して「お前、逃げるのか」と聞くんです。自問自答して逃げていては、情けなくなってしまいますからね。「逃げへんぞ」といって乗り越えてきた体験があります。何かしら自分を勇気付ける、向かっていく生き方を自分にできる、そういうことを続けられる言葉、教訓みたいなものを自分の中に持ってもらいたいと思うんです。**

**とにかく、問題を乗り越えないと本当の深さというのは出てきませんので、ではどうしたら問題を乗り越えらえるのか。問題を感じるのは感性なんですけども、乗り越えるのは理性なんだ。理性で答えを出さないと問題を乗り越えることができません。ということ考えれば、どういう風に理性を使ったら、問題を乗り越える答えがちゃんと出てくるのか、ということを考える必要があります。まずは問題を感じないと始まりません。問題を感じて次に問題を乗り越えるのは、理性の役割。どのように理性を使ったら問題を乗り越えることができるのか。**

**理性の使い方。多くの人は理性を使って考えて、頭を使いながらも理性の使い方を間違ってしまって、考えて考えれば考えるほど、ますます深みに落ち込んでいって、問題を乗り越えられない状況にしてしまう。ということをやっている方が非常に多いんですよ。使い方が間違っている。理性の使い方とは一体何なのかと言ったら、理性という能力は、客観性と普遍性の能力と言いまして、客観性は、物事を客観的に全体を外から眺めてみるという立場を理性に与えてあげないと、理性は正しい答えが出せません。普遍性というのは、皆に共通していること。全体を考える、全体を見るということ。理性能力を使って正しい答えを出そうと思ったならば、物事を外から全体を見つめてみるという立場に理性を立たせてあげることが絶対条件。それができないと、どれだけ理性を使って考えて、答えを出したとしても、その答えは間違っているんです。**

**具体的にどうすれば、正しい理性の使い方になるのか。例えばの話が、深い森の中に迷い込んでしまったとする。深い森の中に迷い込んでしまった状態は、どうしていいかわからないという悩みの状態なんです。どちらに進めば森から早く出られるかなと考えても、あっちに行ってみたらどうだろう、こっちに行ってみたらどうだろうとしている間に、結局答えが出なくて野垂れ死んでしまう。どうしたら一体深い森の中から早く出られるのか。原理的には、森の中に生えている一番高い木のてっぺんに登って、外から全体を眺めてみる。そうしたら、一発で出られる道がわかるわけですよ。これが理性の正しい使い方です。実際問題、森の中に生えている一番高い木を探しているだけでも死んでしまうという話もあるんですが、それは横に置いておいて…。また、そんな高い木に登れるのか、という話もありますが、それもまた横に置いておいて…。とにかく、これが正しい理性の使い方の具体例なんです。**

**現実にはどうするか。自分がどんな悩みを持っていたとしても、悩みながら考えてはいけない。それでは正しい答えは出てこない。悩みながら考えては八方塞がり。では、どうするのか。どんな悩みでも、もしこの悩みが他人の悩みであったら…と考える。他人から自分に「どうしたらいいかな」と相談されたと想定する。その場合、自分は人にどうアドバイスするだろうかと考えれば、どんな問題でも全部自分で乗り越えられる。どんな悩み事も他人ごとにする。よく夫婦喧嘩は犬も食わんと言いますね。夫婦というのは、ちょっとした問題で死ぬか生きるかの、物を投げるは、殴りかかるはでガチガチになった喧嘩をしてしまう。それを他人が見たら、「何でそんなことぐらいでそんな喧嘩するの」と言えるわけですよ。それが他人、外から見た場合の考えだ。中に入ってしまったら「もう許せん！」と生きるか殺すかのものになってしまう。他人から見たら「なんでそんなことで…」と言えるわけですよ。これが答えを出す道筋なんです。**

**週刊誌に書いてあるような芸能人の問題でも、芸能人本人はものすごく悩んで苦しんでいるが、それを読む奥様方はちょっと見ただけで、「こんなことはこうしたらいいんだよ」と、一発で悩みを解決してしまう。ドツボにはまって、悩みの渦中に入ったらどんなことを考えても全部八方塞がり。悩みながら考えると、これから自分がしようとすることの問題点ばかり気になるんですよ。「こんなことしたら、こういう問題が出てくる」「こんなことしたらあの人に迷惑かけてしまう」「こんなことしたら隠しておきたいことがわかってしまう」と。「もうどうしようもない。もう俺が死ぬしかないか」となってしまう。そこで友人に相談をすると、「まぁ待てよ」と止めてくれる。「死ぬ気になったらどんなことでもできる」と言ってくれます。自分事なら死ぬしかない、でも他人事なら死ぬ気になったらどんなことでもできるになる。そう言えるのは、問題を外から見ているから。自分事、他人事の距離感が、問題を解決する距離ということなんですよ。これができないと細木数子さんのところに相談に行ったりしてしまう。アドバイスをもらってうまく乗り越えられるかもしれないけど、それでは一生誰かに頼ってしまう。自分ひとりの力では生きていけない、弱い人になってしまう。なにも細木数子さんに相談をしなくても、全てどんな問題でも乗り越えていきたいと思ったら、この方法を覚えるしかない。理性は客観性と普遍性の能力だ。どんな問題でも他人事にする。**

**しかし、人間は不完全だから一発でうまくいってしまうことは、ほとんどない。何回か失敗を繰り返しながら、諦めずに工夫しながらやっていると、必ず問題を解決することができる答えに近づいていく。諦めなければ必ず最終的に正しい答えに辿り着ける。諦めたらダメ、答えが出るまで諦めなければ、必ずその問題を乗り越えられる。とはいっても自分ひとりの力では限界がある。人間は不完全ですから、だから問題を乗り越えるために必要な力を持った人物を引っ張ってきて、そしてその人の力を貸してもらいながら乗り越えていく。いわゆる「三人寄れば文殊の知恵」と言われるように、何人かの必要な人の力を借りて問題を乗り越えていくというのも、自分の力で人生の問題を乗り越えていくことになるわけなんですよ。その問題を乗り越えていくために必要な力を持った人を引っ張ってくるのも自分の力ですから。とにかく、自分が中心になって問題を諦めないで乗り越えてやる、ということで多くの人の力を借りて乗り越えていくということが、人間社会の人生の生き方なんだ。**

**とにかく、どんな悩みでも悩みながら考えたらドツボにはまって八方塞がりとなる。悩みながら考えたらダメ。どんな問題も他人事にして、他人から相談されたらどうアドバイスするかを考える。それを考えたら、必ず正しい答えが出てくる。これを覚えているだけで、ほとんどの人生の問題は全部自分で解決して、乗り越えていくことができるんですよ。これができない人だけが、細木数子さんに相談するわけだ。ついつい占いに頼ってしまう。そうなるのは、悩みながら考えている人なんですよ。悩みながら考えたら八方塞がりになってしまう。考えれば考えるほど追い詰められてしまう。理性という能力は客観性と普遍性の能力である。理性の原則と限界というのをちゃんと知ることによって、我々は理性を手段能力に使って人生を生き抜く力を自分のものにすることができます。とにかく例えばの話で、深い森の中に迷い込んでしまったらどうするかということを是非思い出してもらいたい。外から全体を眺めてみる。その立場を理性に与えてあげたら、必ず正しい答えは出せるという力を是非持ってもらいたい。決して人生は自分ひとりの力で全てを解決しようと考える必要はありません。「三人寄れば文殊の知恵」。自分以外に後二人の問題を解決することができる力を持った人に、助けを借りて三人の力を寄せ集めて知恵を振り絞って、問題を乗り越えていく。それで十分、自分の力で人生を生きていると言えます。**

**しかし、それにしても問題を乗り越えていくということをするためには、その力はやっぱり成長させていくということを考えないといけません。ですので、より問題を的確に乗り越えていけるということになり、あるいは的確な答えを早く出るという状況にしていこうと思ったら、その方法論があります。そのためには、問題の核心を掴む。問題の本質を見抜く眼力というものを養っていかないとなかいといけません。そうでないと、なかなか問題の本質、勘所にはまらない。なかなか問題が、乗り越え辛い。問題の本質はここにあるんだと、ここを突いたら問題は一発で解決できるという勘所を掴んでいく。そのためには、問題が本質を掴む眼力を養っていかなければならない。この問題の本質を掴む眼力というのはどういうことなのかと申しますと、学問的な立場から言うと、いろいろ方法論というのがあって、それによって問題を処理するということもできる。ですけど、方法論にあった問題なら対応できるんですけど、それにも限界がある。どうしても人間の理性でつくった方法論というものには、ある偏りがあるんです。どんな問題でも方法でうまくいくということはないんですよ。方法論というものには形があるから、外れている問題もあったりなんかする。方法論にとらわれると、偏ってしまっているので、多くの問題に対応できることにはならない。理性的な方法にとらわれないで、問題の眼力を養うという感性の力をつくっていく必要がある。**

**問題を乗り越えていくための感性の力を養うにはどうするかと言ったら、今自分がプロとしてやっている仕事の中から出てくる問題を教材にして、プロならば問題に対する検討がつくと。例えば、車の修理をされている方なら、どこか具合が悪くなって、整備工場に車を持ってくる。「ここが具合悪いんです」と言われたら、そこが具合悪くなるということは、「原因はこれか、これか、これだ」というように具合の悪くなる予想が立つ。勘で傾向を掴むということが、自分がプロとしてやっている仕事の中の問題ならば、そういう力が養われてきますので、そういう方法で養う。どうしても学問的な方法論を使ってしまうと偏りがあるので、方法論ということは考えないで、実践的な作業の中から自分自身が自分自身の仕事を通して、問題の核心を掴む勘を養うと眼力が育つんです。理屈ではなく、「多分、ここだろう」という問題の核心、本質を掴むという力が、だんだん養われていく。そうすると、他の分野の問題に対してもそれが働いて、そして問題の本質を見届けてそれを逃さない問題解決の力がだんだん養われていく。どんな問題でも勘所というか、核心を突いたらこの問題は乗り越えられるという本質を早くわからないと、乗り越えられません。問題の核心を掴む、問題の本質を掴む眼力というのは、問題を乗り越える力をスピーディーにする課題なんです。**

**それから次は、物事の意味や価値について考える。深さというのは、物事に意味や価値を感じる能力と関係しているわけですよ。意味や価値を感じるというのは、心の中に深さをつくっていく働きをするわけですけど。どうしてそうなるか。それは人間の心とは何なのかというと、人間の心は意味と価値を感じる感性。心の中に物事のより根源的でより本質的な意味や価値を感じる力をつくっていけば、当然のことながら心は成長する。そして、意味や価値を感じるより根源的でより本質的な力をつくろうということは、心の深さができてくる。そういうことになります。深さ、高さ、大きさも全部人間の意識、心の中の世界を成長させていくということです。心が意味と価値を感じる感性はなのだから、それによって心は成長する。**

**前回の高さのお話をしたとき、人格の高さとは何なのかと言ったら、それは価値への情熱、価値への感覚であるということをお話しました。人間の高さとは、どこまでもより高度・厳密・真実・美しい・善なものを求めていきたい、という価値へ欲求・情熱が、人格の高さを表現するんだということをお話をしました。これもやっぱり、人間の心というのは、意味と価値を感じる感性だから、価値への欲求を持てば、高さが出てくるという構造は生まれるわけですよ。それと同じように心は意味と価値を感じる感性なんだから、だからより根源的でより本誌的な意味や価値を感じるという感性を成長させていったら、心の中の深さができていくということになるわけですよ。そういうことから、物事をより深く理解し、より深く問題を解釈し、理解するという力も問題解決するためは大事です。問題をより深く捉える力をつくっていこうと思ったら、我々はいろんな物事の意味や価値について考えて、今自分が感じている価値よりももっと深い、もっと根源的な価値というものを感じ取る力をつくると、結果として物を見る目の深さ、人を見る目の深さができる。より深く人を理解することができる。より深く人のことをわかってあげることができる。物事の意味や価値を考えることによって人を見る目の深さができる。ものを見る目の深さができる。そのことによってまた問題を乗り越える力が成長するということになってくるわけであります。**

**人間の成長というのは、深くなっていくと、それまで見えなかったものが見えてくるという気付きがあるわけですよ。何か新しいことに気付くと、それまでわからなかったものも「そうなのか」と、「わかってしまった」となる。そのようにどんどんどんどん物事の理解の仕方に深さができてくる。気付きが湧いてくることによって、物事をより深く理解できる。知恵が湧いてくる。問題を解決していくと知恵が湧く。湧いてくるというのは、深いところから湧いてくるんだから、その道筋が人間の深さという道を心の中につくってくれるという働きをします。気付きも知恵も湧いてくるもの。湧いてくることによって、我々は自分の命・意識の中に深さというものを実力としてつくっていける。それが人間性の深さというのを実践的につくっていくための道筋・方法論になってきます。それが深さというものを自分のものにした人間の素晴らしさ、価値、値打ちになるわけです。**

**気付きとか知恵というものは、実際にどういう仕方で命から、感性から湧いてくるものなのかと言うと、今日のレジメの最後に書いてあることなんですけど、人間性において最も深くなった状態というか、もうそれ以上の深さはない領域は、自分の命が宇宙と繋がると状態になったとき。もうこれ以上深いことはない、その水準に我々は到達することができるんです。宇宙と繋がった命。あらゆるものは宇宙の根源から湧き上がってくるもの。そういう構造になって、人間は宇宙の力によってつくられた命を持っているわけですから、宇宙と繋がったときに、それ以上深いことはない意識になれるわけです。どうしたら一体我々は宇宙と繋がって、いろんなことが宇宙との関わり、宇宙の助けを借りている状態になれるのか。人間において深さを追求する最終的な課題になってきます。**

**実は命というものは、宇宙の力によってつくられたものだから、人間の命の中には宇宙の摂理が常に働いている。本来、命は宇宙と繋がっているんですよ。本当は宇宙と繋がって、宇宙との交流の中で生きているというのが現実ですよ。新陳代謝も肉体そのものが、自分の使い古したものを外へ出して、宇宙から外から自分に必要なものをまた取り入れて…というもの。新陳代謝で命が保たれている。現実的に宇宙との交流の中で生きているということ。また我々は寝ていても死なないこと自体、自分の力で生きているのではなくて、生きていることは宇宙の力によって生かされている。命をつくった宇宙の摂理の力が、命の中には常に働いて支えてくれている。常に宇宙の力と命は交流している状態にあります。**

**命はそういう状態にあるんだけど、意識は残念ながら理性という能力が表面において働き、常に作為的・人為的に何かやっていこうと生きています。自分の作為的な力に頼って生きているから、宇宙の力というのをなかなか命から湧いてこなくなって、そして自分の理性の力が理屈を超えた宇宙の力の湧出を断ち切っている、遮っているという状態になってしまっている。だから残念ながらほとんどの人は人為的な力で生きて一生終わってしまう。だからあまり大きなことはできない。宇宙と繋がった人間は、人為的な個の限界を超える力、エネルギー、能力を獲得できますので、そういう人だけが多くの人の役に立つことができる。個の限界を超えた仕事、人生というものを自分のものにすることができます。どうしたらは我々は、元から宇宙と繋がっている命を現実にも宇宙と繋がっている状態にすることができるのか。それを考えることによって我々は、最も深い生き方ができる状態に自分を成長させることができます。**

**では、どうするか。宇宙と繋がる状態に本当に自分を持っていこうと思ったら、どうするかと言ったら、まずは日常とにかく自分の理性の力に頼って生きてしまっている。まず、理性は一体何なのか。他人がつくった知識や技術を学習して、覚えて自分のものにして、それを使って生きているというのが理性能力なんですよ。理性能力の実態はパクリだ。しかも、それは人間が作為的につくった知識や技術や教養というものによって満たされている。理性能力というものは、人間の力の限界を超えることはできない。我々が人生で悩むとか問題にぶつかるのは、今自分の持っている力では何ともならない、今自分の持っている力で解決できないという状態。そんな深刻な問題にぶつかると、それが本当に頼むという状態。今自分の持っている力で解決できる問題は問題ではないんだ。万策尽きた、もうお手上げ…そんな状態が本当の問題にぶつかったという状況です。諦めてしまったら、人は一生宇宙と繋がりません。しかし、諦める前にそこから頑張るのが重要です。「ここから俺がなんとかしてやる」「これを乗り越えてもっと成長したい」という気持ちが強くなってきて、どうしようと思って頑張るという流れです。そういう状態は非常に辛い。でも、諦めなければ命の中にある命を活かす、母なる宇宙の愛の力が働いている。大きな問題にぶつかっても諦めないで頑張っていると、母なる宇宙が「何とかしてあげたい」と思ってくれるんだ。自分が苦しんでいると、自分の苦しみは母なる宇宙の母性をくすぐるんです。諦めないで頑張っていると、命には命を活かす母なる愛の力が働いているから、頑張っていると何とかしてあげたいと思ってくれる。その頑張りがお母さんの愛を目覚めさせる。**

**そうするとどうなるか。命には生まれながらに潜在能力という遺伝子が与えられている。諦めずに頑張っていると、「あなたに必要な力は、この力ですよ」と、宇宙の摂理の力が潜在能力を呼び覚ましてくれる。そのときに人間は気付いて、そのことによって問題を乗り越えるという結果が出てくる。知恵や気付きが湧いてくるというのは、自分が引っ張り出すのではなくて、宇宙の摂理の力が生まれながらに与えられている潜在能力を目覚めさせてくれて、それを意識化してくれてわからせてくれる。これはまさに、宇宙の摂理の力が働き、愛の力がその人に味方し、助けてくれて出てくるのが知恵や気付きだと言えます。本人としては「あ、そうか」とわかってしまった瞬間に「これは俺の力ではない。まさにこれは天の助けだ」と。実勢問題、これはその言葉の通り、天の助け、母なる宇宙の摂理の力が今必要な潜在能力を目覚めさせてくれる。そのとき、自分の命は確実に宇宙と繋がって、宇宙の助けによって、問題を乗り越える力を駆使して、生きていける状態になるわけです。これをもって宇宙と繋がったと言えるわけであります。小説家、芸術家がよく言うことですけど、「なぜこんなに何日も徹夜をしてまで頑張れるのか、普通の人間ではこんなに頑張れない」と思いますよね。そうすると、「やめたいけれどもやめさせてくれない。どんどん湧いてきて書かざるを得ない状態なんだ。何か不可思議な力で書かされているんだ」。そんな状態で書いている。画家でも絵を完成させるときには、途中でやめてしまっては持続性とか絵の感覚が切れてしまうから、深まっていく状態を持続していかないと深い絵は描けない。やめるにやめられないという状態で筆を進める。そういう状態というのは確実に人間の力を超えてしまっているんだけど、宇宙の力でエネルギーを保って、仕事をしている状態なんですよ。**

**また、NHKで有名な「プロジェクトX」。不可能を可能にした男たちのドラマと言われるドキュメントも、やっぱり人間の力ではもうどうしようもない。このままでは俺たちをバカにしたあいつたちを見返してやれない、何とかしたいと言う思いで頑張っている。そうすると、何回も苦しい状態で失敗けれど、「このままでは終わらんぞ」ということでやっていると、何とかしてあげたいと母なる宇宙は思ってくれて、そして問題を乗り越えるためにはこの力が大事なんですよ、と命に潜在する能力を湧き出してくれて、気付かせてくれる。そのとき、不可能は可能になる状態になる。それがまさに宇宙と繋がった、自分の力を超えた力が湧き上がって問題を乗り越えさせてくれた状態なんです。**

**そこまで行けば、人間としてはもう自分の努力で到達できる人間性の深さを超えて、宇宙と繋がって宇宙の根源から湧き上がるようなエネルギー、気付きや知恵を持って人生を生きられる。そのことによって、誰でも個の限界を越える仕事や人生を自分のものにすることができる。どんな人にも可能性があるんだ。特別な人だけではない。誰でも可能性があるんだけど、多くの人が宇宙と繋がれないで、人為的な作為的な人生のまま個の限界を超えないで終わってしまう。それはほとんどの人が今自分の持っている理性の力の限界をぶち破って、先に進もうという生き方をしないから。できることしかしようとしないで、今自分の持っている力できないことは「もうダメだ」と思って万策が尽きたと諦めてしまう。だから命から気づきや知恵が湧いてこない。**

**本当に宇宙から湧き上がる個の限界を超えた力で人生を生きていって、どんな問題でも俺が出ていったらなんとかできるという確信を持って生きていこうと願うならば、どこかで自分の個の限界をぶち破るという状況を体験する必要がある。今自分の持っている力で何ともならないけど、何とかしたいから、なんとかなる・なんとかできる…宇宙を信じて命を信じて必ず助けてくれる。必ず頑張っていたらお母さんは助けてくれるという思いを持って諦めない。失敗しながら、失敗を重ねながらも、諦めなければ宇宙は母性に基づく愛によって、問題を乗り越えさせてくれる。そういうときが来ます。人間的には不可能なことが可能になるという瞬間があるわけですよ。そのときが来るまで、我慢して頑張れるかどうかです。これが人生の大勝負ですよ。**

**一旦宇宙と繋がったら、本当にも信じられないような力、自分ながら自分で感動してしまうような言動が出てきますよ。なぜ俺にこんなことができるのか、なぜ俺にこんなこと分かるんだと、仕事の中で出てくるわけですよ。なんでこんなに仕事がうまくいくのか、なぜこんなに思わざる人が助けてくれるのか。自分でも不可思議、奇跡だと自分で思うようなことがどんどんと起こる。これが宇宙と繋がった命の素晴らしさというもの。とにかく確実にそういう構造が命には存在しますので、諦めないで頑張って生き続ければ、必ずどこかで母性をくすぐるという状態になって、宇宙に何とかしてあげたいと思わせる。そういう自分に成長する、そういう自分になることができる。これは信じるしかない。理屈を超えた世界ですから、信じる気持ちに応えて宇宙は助けてくれる。疑ったら力は湧いてきませんよ。ひょっとしたらダメかもと思ったら、もうダメです。絶対なんとかなる。必ずお母さんは助けてくれる。とにかく自分の命には、宇宙の摂理の力が働いていて、それによって生かされているんだ。だから、信じるしかない。これは確実なこと。誰が自分の命を生かしているのか、それは自分ではない。命を地球上につくった宇宙の摂理の力しかないんですよ。命の中に存在する宇宙の摂理のエネルギーを目覚めさせることができたら、もう人生はしめたものだ。どんなことでも全部解決できる。自分の力でないものが湧いてきて、全部問題を乗り越えさせてくれる。**

**そういう意味でも、そのためにも問題から逃げない。問題には答えがある。答えのない問題はないんだ。問題に対する答えというのは、生まれながら命に与えてもらっている潜在能力なんだ。そして自分の身に降りかかる問題も、人知を超えた天の計らい。母なる宇宙の愛の試練として、自分に問題が与えられるんだ。問題を与えるのも宇宙なら、その問題の答えを命に与えてくれているのも宇宙だ。問題と答えは両方とも宇宙から与えてもらっているんだ。問題というのは答えを引っ張り出すために出てくるんだ。だから問題が出てきたときから答えとリンクしているんだ。頑張り続けていたら必ず答えにぶつかる。答えが出てこないことはない。それを信じたら答えは早く出てくるんですよ。疑ったらすべては水泡に帰する。疑ったらすべて破壊される。信じたら全てはうまくいくようにできているんですよ。**

**なぜ人間は原始宗教という文化を最初につくったのか。それは、信じることによってあらゆることがうまくいくから。信じることによって生きる力が湧いてくるからです。疑ったら一瞬たりとも生きられない。当然に吸っている空気もひょっとしたらひょっとして…と思ったら、空気は吸えません。水道水でもひょっとしてこんなところに青酸カリ…と思ったら飲めません。カレーライスが出てきてすぐに食べてしまうのは、つくってくれた人を信じているし、食材も信じているし、食材をつくった人も信じている。ずっとその連鎖を信じているから食べられるんですよね。どこかで誰かが変なことをしていたら、とても食べられませんよね。全部、信じる心が人間の行動をさせてくれている。仕事もお客さんがお金を払ってくれると信じているから仕事ができる。また仲間を信じているから仕事ができる。疑う気持ちがちょっとでもあったら仕事はできなくなりますよ。生きることが信じること。それほどに信じる力は、あらゆることを可能にする力ですよ。**

**キリスト教でも信じる者は救われると言いますけど、信じれば不可能は可能になるんですよ。ちょっとでも疑うと、命から湧いてこない。信じたらどんどん力が湧いてくる。自分を信じたらどんどん自分の力が湧いてくる。自分に否定的になったらもうダメ。自分の底力は出てきませんよ。でも、自分を信じたら、とことん自分の底から湧いてきますよ。人も信じたら、とことん自分の力を出してくれます。信じることが人間を幸せにする。信じることあらゆることを可能にする。信じれば皆喜ぶ。信じれば皆幸せになる。信じる目の中に、信頼する・信じるという力が宿れば、全ての人を幸せにできますよ。失敗しても失敗しても信じて、信じて信じ抜いてあげれば、どこかでその人は信頼に応えて頑張ろうという気持ちになってくれるときが来るんですよ。どんな人の中にも本当に宇宙の底知れない力が宿っています。一度目覚めたらすごいことなりますよ。なかなか宇宙のすごい力が湧いてこないのは、皆どこかで否定されているからですよ。レッテルを貼られているような体験が何回かあるから、なかなか自分が強気になれない。自分を信じられないんですよ。**

**どんな人でも一番の大きな味方は、自分には自分にしかできないことがあるということ。自分は他の人間ができない何かができるという力を宇宙から与えてもらっているんだ。それが顔だ。顔が違うということは、俺には俺にしかできないことがあるということ。顔が違うということは、俺は他の人間ができない、他の誰にもできない、俺にしかできないものを持っているということ。それを証明するのが顔です。顔こそまさに自分の自信の原点ですよ。俺の顔は世界でただ一人なんだ。オンリーワンなんだ。そして俺は、この時代を生きて仕事をするために生まれてきたんだ。自分には必ずこの時代において何かやって、生きていかなければならない仕事がある。それが使命として与えられている。その仕事が何なのかを自分の顔を通して掴み取らなければならない。それが俺の顔を生きることだ。人生とは俺の顔を生きることだ。俺の顔を生き抜けば、俺にしかできないことができて、生きて死んでいける。それが使命であって、使命は命の使いどころだ。それを掴むことが使命を掴むこと。その使命は顔の中に表現されている。俺の顔とは何なのか、それを知ったら必ずや他の人間にはできない重要な仕事にぶつかることができる。**

**自分のなすべき仕事を教えてくれるのは問題だ。問題というのは自分で仕事を与えてくれているんだ。一般的に問題というのは、「誰かこの問題を解決できる者はいないか」といって出てくる。だから、その時代に生きている人間の誰かが、「俺が！」と言ってその問題に食らいついていく。そのことによって歴史に名を止めるという人間が出てくる。自分に降りかかる問題は全部自分に仕事を与えてくれているんだ。そういう意味で、問題から逃げることはもったいない。そこで逃げるのは、自分から使命を放棄しているようなもの。**

**この時代に生まれてきた仕事というのは、問題として出てくる。もっとそれを自分の身に引き寄せて考えるならば、今自分が生きて仕事をして生活している中から出てくる現実への違和感というものがあるんですよ。「なんかここのところ納得できないな」「なんかここのところもうちょっと何とかならないか」「もうちょっと便利にならないのか」「なんかここのところ間違っているのでは」。そういう現実に対する違和感が湧いてくることがある。どういう分野、ところに違和感を感じるかが、自分がどういう仕事に向いているか、自分がどういうところに使命があるかを教えてくれる。いろんな自分の命から湧いてくる現実への違和感という問題への気付き、その気付きがまさに宇宙が「この仕事をするために生まれてきたんだ」ということを教えてくれているわけです。それに対し自分が食らいついていって、どこか納得できないところがあったならば、それは「君こそまさにそこのところをもうちょっと納得できるものにするためにこの時代に生まれてきたんだ。君の存在理由は今すぐそれをするため」ということ教えてくれているという現象です。**

**一番身近に自分の顔を生きようと思ったら、命から湧いてくる現実への違和感という問題に食らいついていく。その問題を自分が引き受けて生きることが、俺の顔を生きるということになっていくんだ。いくつか自分の命から湧いてくる現実への違和感という問題から逃げずに乗り越えていったら、最終的に必ず「これこそまさに君にしかできない仕事だよ」というものに天は導いてくれるわけですよ。その問題の連鎖が大きな使命に必ず自分を導いてくれる。だから問題を感じることが大事なんだ。問題を感じなかったら、使命に目覚めることができない。問題を嫌がったりダメ。問題こそ大事なんだ。そしてまずは理性の正しい使い方というものを覚えて実践する。それでなんともならなかったら、だけど何とかしたいと思う。そう頑張っていると、やがて母なる宇宙は助けてくれる。そうして、人間として到達しうる最も深い生き方に我々は到達することができる。これが人格の深さをつくる道筋であります。是非仕事の中でも、「なんて深い。なんて深いこと言うんだ」と、周りの人を感動させることができるような自分という魅力を是非つくってもらいたい。仕事をしながらつくっていく道筋です。実践という仕事を通して磨いていくのが深さというものですから、肉体的な命の痛みを通さないと深さはできませんから、体験を通さないと。仕事をしながら命に深さという輝きをつくっていく。そういう思いで仕事に取り組んでもらいたいと思います。ということで今日の話は終わります。どうもありがとうございました。**